



喫茶店でコーヒーを一杯。

---

みず。

一番、自分にとってですが、  
身近なものは・・・。

コーヒー。喫茶店で、コーヒーを一杯、飲んできたんです。  
まあ、知ってる人の。近所にあるんです。  
ハワイ風のその店は、なんだか『木』のイメージが強く、  
うまく表現は出来ないのですが、『木』を意識したインテリアが  
店のそこらかしこにおいてありまして。

そこで、おすすめコーヒー。400円くらいだったかな？

一杯頼んで、飲んで、ほっとして、帰ったんです。

私にとっての、水、・・・うーん、そのくらいですね。

## 時間

---

時間・・・。

こうして、時間なんてものは、結構早く過ぎていってしまいうのです。

私も今、音楽を聴きながら、キーボードに両手を置き、  
なんだかちょっと眠気を感じながら、  
気の向くまま人が読むモノを書いている、そう、まさにこれです。  
音楽はいいですね。何も書くことが無くても  
テンションだけで何かを書かせてしまう。

コーヒーも、そう、音楽も、そう。  
両者に共通することは、  
人を安らかにさせることだ・・・。なんて、ちょっと考えてみました。

とりとめもない、特に意味が無い話ですね。  
無駄な時間を使わせてしまいすみません。

しかし、これが結構、私にとっては  
心地のよい時間であったりするのです。本当に。

とくん

---

とくん。

脈をうつ。

心臓が、全身にさーっ・・・と？水を押し出している。けつえきだ。

全身に、まあ、脳にも、血液がめぐり、私は『生きている』を感じる。

皮肉にも、水の流れからしか、『生』を感じ取れていないのかも知れないが。

私の体の中に、川が流れていて。

それは普通の川で、

なにかに押し流され、押され、流され、どこかしらに必要なものを届ける。

いのちの、運河。

一定の鼓動でうごくそれは、今さっき飲んだコーヒーの水分を、  
まあ、普通の話だが、届けていた。

## れきし

---

人の歴史は、水の流れのようですね。

心臓の鼓動に押し流されただけで、  
私たちは、ここまで来てしまったのですね。  
よく考えると、遠い遠い距離を、  
流されるだけで来てしまったのですね。

無数の命、無数の流れが、私たちをさーっ・・・と流してきた。  
今ここでこうしてたっているのが  
とても、不思議な事ですね。

さっき飲んだ、一杯のコーヒー。  
どれだけ多くのものを、押し流すのだろう。私の心臓から。

とくん。水。コーヒーに流された、新たなる歴史、水の流れ。  
喫茶店のコーヒーから始まる鼓動。人類の新たなる創造の時。

400円ちょっとのコーヒーが、歴史に打ち込んだ重い重い楔は、  
心臓がうちだす鼓動の流れに乗って、  
今日、明日、誰かを押し流していくのだろう・・・。

水　－Water－

<http://p.booklog.jp/book/26232>

著者：せいうんですよ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/seiundesuyo/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26232>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26232>